

## 平成24年度こうちふるさと寄附金活用事業（実績）

- ◇ 平成23年度に頂きました230件、11,733,672円のご寄附は、下記の平成24年度の事業（4分野8事業）に活用させていただきました。

### <分野1 こうちの「山」「川」「海」の環境を守り育てる>

#### ○清流保全計画指標モニタリング事業（650千円）

物部川と仁淀川の本流及び支流のそれぞれ9地点において年4回水質調査を実施し、物部川清流保全推進協議会及び仁淀川清流保全推進協議会での取り組みの達成状況を把握する指標を収集するとともに、流域の小学生らが環境学習の一環として取り組むことができるよう、水生生物の生息状況や透視度など、より人の感覚に近い評価指標を収集しました。

#### ○清流基準モニタリング事業（474千円）

国の定める環境基準では四万十川のような清流を評価することができる水質基準が制定されていないため、高知県ではその清らかさを人間の感覚に近いもので表現することを目的とした「四万十川清流基準」を定めています。四万十川流域住民の皆さんが調査を行うことによって、四万十川の清流や価値を直接肌で感じとり、清流を守ろうとする思いを深め、広げていくことにつながりました。



#### ○環境美化推進事業（874千円）

清潔で美しい県土に暮らすことで、教育や治安はもとより、モラルに好影響を及ぼし、ひいては産業や観光の活性化に結びつけることを目的として、2月の県民一斉美化活動を中心に県内各地で美化活動を実施しました。また、啓発活動として啓発用ポスターを作成し、協力企業等の事業場や公共施設などに掲示をしました。



### <分野2 ふるさとの文化と子どもたちを守り育てる>

#### ○ふるさと教育推進事業費補助金（1,779千円）

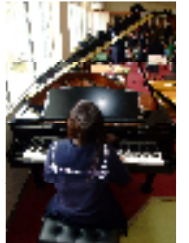
ふるさとへの理解を深め、郷土愛を育むため、地域で専門性や広域性を生かして活動をしている団体に助成を行いました。土佐史談会では中世から近代にかけての土佐の文化に関する連続講座の実施及び郷土史にゆかりのある史跡の探訪、県内の高校への出前講座を実施しました。高知県連合婦人会では県内3ヶ所の札所において小学生とともにお遍路さんの接待をしました。その他、小学生の知識、関心を高めるため、「龍馬検定」の小学生版の実施、県内の小学5年生への「坂本龍馬を知っちゃう？」の配布を行いました。



#### ○全日制高等学校運営費（3,433千円）

中村高等学校の古くなった楽器を新たに購入しました。ピアノは音楽室に設置して音楽の授業で活用し、その他ビブラフォンやファゴットなど6楽器は主に音楽部の活動に活用しています。

平成23年度までは、コンクールの部門が、四国大会までのB部門でしたが、楽器が増えたことにより、全国大会に続くA部門への参戦が可能となり、平成23年度の四国大会最優秀賞を超える成果が期待されています。また、幡多地域の小規模学校（小・中学校）に楽器を貸し出すことで、相互交流を深めるなどの活動も可能となりました。



### <分野3 龍馬がふるさと「高知」を盛り上げる>

#### ○観光振興推進事業「リョーマの休日」キャンペーン推進事業（1,000千円）

観光キャンペーン「リョーマの休日」の推進を通じ、歴史・文化・自然・食など、高知県の幅広い魅力をテーマ別に紹介することで高知ならではの休日の過ごし方を提案し、観光客の誘致を図るためにパンフレットを作成しました。季節ごとに地域の観光資源をアピールしていくエリアキャンペーンや龍馬パスポートの実施などによって一年を通じた県内各地域への誘客を図ることで、観光地の賑わい創出及び高知県経済の活性化に取り組みました。



### <分野4 元気あふれるこうちをつくる>

#### ○自主防災活動促進事業費（1,277千円）

自主防災組織の育成や活動の活性化を進めるため、県内の自主防災組織のリーダーを対象に、研修会を3回実施（参加者計146名）しました。また、三重県、和歌山県、徳島県との4県で行っている自主防災組織交流大会に参加し、他県での活動事例について学習することで、自主防災組織の活動の活性化に向けて知識の向上を図ることができました。



#### ○移住・交流総合案内業務（2,000千円）

4名の移住・交流コンシェルジュにより高知県への移住を希望される方への相談対応及びきめ細やかなフォローアップ等を実施しました。また、都市部で開催される移住相談会等での高知県への移住プロモーション活動等を年27回実施しました。これらの活動により、相談件数及び移住実績も年々増加しており、平成24年度は789件の相談があり、59組104人の方が高知県に移住をされました。